
流雨《るう》ちゃんの日

仁科柚希

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

流雨^{るう}ちゃんの日

【Nコード】

N8209C

【作者名】

仁科柚希

【あらすじ】

魔法学校に、通う13歳（最下級生）流雨^{るう}のドタバタとした一日をつづる。コメディ。

1・朝

チュンチュン

小鳥の鳴き声が、朝を告げる。

「ふああ、ねむい。」

流雨は、あくびをしながら、言った。

朝の光に目を細めながら、流雨は、着替え始めた。

ここは、みなさんの住む場所とは違う場所。パラレルワールド！なのです。

ここではまず、科学が「迷信」だと思われています。

「あれ？」と思うでしょ、「そんなのおかしいよ」って。

そう、それもそのはず。だって、今私たちの生活を支えているのは、科学！なんですから。

「だったら、ここでは、何が支えているのか？」って？

そう、ここでは科学の代わりに魔法がみんなの生活を支えているのです。

ファンタジーな世界でしょ。

そして流雨が、今いるところが、そのファンタジーな世界になう、魔法学校です。

精霊魔法学園の、女子寮で今流雨は、目覚めたばかりでした。

では、流雨のハチャメチャな一日を、のぞいてみましょう。

流雨は、着替え終わると食堂へ、朝食を食べに行った。

「流雨、おはよー」

親友の未知は、ハムエッグを食べながら、言った。

「あ、未知おはよー」

「ねえ、ねえ、ちよっと。流雨知ってる？1限の魔法実技、テスト

だつて」

「ウソ！なにそれ、抜き打ちテスト！？」

「らしい。A組の子に聞いた。昨日テストだったんだって。」

（そ、そんな）と流雨は、思う。流雨には、物の色を変える、というものすごく、かんたんな魔法さえ、使えないのだった。

「そんな、惨い！あたし、赤点必至だよ！」

「うん。そだろね。まあ、ガンバツテ」

「うわーん！！！！！！！！」

ちーん

ご愁傷様です。

1・朝（後書き）

読んでくださり、本当にありがとうございます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8209c/>

流雨《るう》ちゃんの日

2010年10月11日17時13分発行